

食育推進にあたっての評価指標

第二次食育推進計画では、以下のように目標値を設定し取り組みます。

目 標		現状値(平成28年度)	目標値(平成34年度)
1	食育に関心を持っている人の割合の増加	小学生保護者:65%	増加
2	夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	夕食を週に5回以上家族と一緒に食べる「共食」の割合 【中学生】86% 【高校生】77%	増加
		家族以外と食事などをする機会がある高齢者の割合 【高齢者】62%	増加
3	朝食を毎日食べる人の割合の増加	【小学生】95.1% 【中学生】89.7% 【高校生】74.4% 【保護者】70.2% 【高齢者】97.4%	中高生・保護者の割合の増加
4	学校給食における地場産物を使用する割合の増加	【鬼北町産品】17.3% 【県産品】42.4% 【国産品】81.8%	【鬼北町産品】20%以上 【県産品】40%以上 【国産品】80%以上
5	栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合の増加(主食・主菜・副菜をそろえた食事をする人の割合の増加)	(できている、まあまあできている) 【小中高生平均】 朝食30.7% 夕食68.1% 【保護者】朝食34.3% 夕食81.6% 【高齢者】朝食87% 夕食88.3%	朝食の割合の増加
6	よくかんで味わって食べる人の割合の増加	【小学生】71%	増加
7	鬼北町の食文化を伝承する郷土料理の普及・継承のための体験や講義等の活動実施数の増加	8回(うち小中学校5回)	増加
8	野菜摂取量の増加(毎食野菜を食べる人の割合の増加)	野菜をたくさん食べるようにしている人の割合(毎日または1週間に5~6回) 【小学生】63% 【中学生】82% 【高校生】51%	中高生の割合の増加
		野菜を毎食食べている人の割合 【保護者】30% 【高齢者】73%	保護者の割合の増加
9	寝る2時間前以降に間食または夕食をとる人の割合の減少	14.4%	減少
10	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合	評価指標は設定しないが取り組む	
11	特産品の利用の増加(地場産物の食品を食べる)		

参照：平成28年鬼北町健康と食アンケート

(町内の小学4年生、中学1年生、高校1年生とその保護者(30~40歳代中心)および高齢者を対象に調査)